

サラリーマンから漁師に
－漁業に足を踏み入れて－

亘理町漁業協同組合漁業研究会

菊地 裕丈

1 地域の概況

亘理町は宮城県の南東部に位置し、東には太平洋、西は阿武隈高地の丘陵地帯、北に阿武隈川が流れる自然環境に恵まれた豊かな町です（図1）。古くは伊達家一門亘理伊達家の城下町として栄え、現在は広域仙台都市圏の南玄関、またリゾートエリアとして発展しつつづけています。町の基幹産業は農・水産業となっており、特に温暖な気候と都市近郊の立地条件を生かしたいちごや施設野菜、りんご栽培などは県内でも屈指の生産量を誇っています。

2 漁業の概要

当研究会の所属する亘理町漁協は、組合員数が236名（うち正組合員186名）で、組合員は主に小型底引網漁業、刺し網漁業、海苔養殖業などを営んでいます。また、町には漁協が運営する魚市場があり、平成12年度の水揚げ取扱い金額は鮮魚類が約3億7千万円、貝類が約4,400万円、乾海苔が約1億4,600万円となっています（図2, 3）。

3 研究グループの組織と運営

亘理町漁業研究会は昭和57年4月1日に発足し、現在は小型底引網漁業、海苔養殖漁業に従事する10名の部員により構成されています。

我々漁業研究会では、活動の一環としてアマモの移殖試験やヒラメ稚魚放流など漁業環境や資源を守るための事業等に取り組んでいるほか、地域の「わたりふるさと夏まつり」や「伊達なわたり生き生きフェスタ荒浜漁港水産まつり」など各種イベントにも積極的に参加するなど地域振興にも努めています。

4 漁師を始めるまで

①漁師になるまで

私は漁業に従事するまで、東京で13年間アパレル会社に勤務していました。学生の頃から洋服が好きで就いた仕事でした。その一方、以前から“海が好き”で、テレビ等で厳しい自然と正面から向かい合い漁をする漁師さんの姿や、浜で豪快に刺身や鍋を毎日食べている姿を見て（実際は違いました）、「かっこいいなあ」、いつかは自分もあの様に「海で働けたらいいなあ」と思っていました。

東京での生活は忙しく、家族が揃って顔を見合わせることは稀でした。そんなある日、ふと立ち寄った都内の書店の片隅で「漁師のなり方」という本に出会いました。その中には漁業の種類や問い合わせ場所、そして転職をして漁師になった方のお話が載っていました。さっそくその本を購入し読んでみると、自分と同じ考えを実行した方の話が目にとまりました。その時、「漁師になりたい」「今しかない」と強く心に感じ、一大決心をしました。

②就職活動

東京にある漁業就労センターに資料を送ってもらったり、各方面の漁協や団体に電話をしました。当時私は、担い手不足が騒がれている漁業であれば「すぐ働く場所は見つかるだろう」と甘い考えを持っていましたが、問い合わせると「未経験者はちょっと・・・」、
「家族でやっているから」と数えきれないほど断られてしまいました。そんな時、何度か話を聞いて頂いていた銚子の漁協の方に、巻き網の船を紹介してもらいました。その会社は福利厚生、給与制、家族寮などが充実しており、サラリーマンをしていた私には違和感なく入っていける所でした。

③家族への告白

これまでの就職活動は家族には内緒にしていたのですが、巻き網の会社の話を聞いてから妻に自分の気持ちを打ち明けました。妻には「子供がいるので、“はい、わかりました”と簡単には言えない」と言われ、また、今までの仕事とまるっきり違った仕事内容、給与面、違う土地での生活への不安等数多くの課題が出されました。そこで、その会社の過去5年間の給与の資料、家族寮のこと、家族との時間を持つことができることなどを時間をかけて話し、不安をすべて解消できたわけではありませんが、なんとか了承してくれることになりました。勤めていた会社にも自分の思いを伝えましたが、「漁師？冗談でしょ！」
「何考えてるの？」などと誰もが戸惑い、驚いた様子でした。しかし、自分の真剣な気持ちを伝え、円満に退社することが出来ました。

5 実践活動状況

①巻き網船

いよいよ漁師デビューとなりました。散々家族に心配をかけたこともあり、私は「失敗はゆるされないぞ!」というプレッシャーで一杯でした。実際、船に乗ることになり、心配していた船酔いはなかったものの、昼夜逆転の生活になったことが大変苦痛でした。また、漁業用語がわからず、一刻を争う船の上で度々棒立ちになることも少なくありませんでした。“とも”ってどこ?“アバ”って何?“おらえろ”ってどうするの?まだまだたくさんあります。また、1つのことを覚えるのにも、皆親切心で(?) 様々なアドバイスをしてくれるのですが、その人その人でやり方が違い、かえってこんがらがってしまうことも多く、また「何故そうするのか」という理由までは教えてもらえず、本来の仕事の意図がわからないままになってしまうことも数多くありました。そのため“漁師は自分の体で仕事を覚える”といった今までの流れはもちろん大切ですが、新規参入者にとって、また多人数で乗る船の場合では特に教育をする窓口となる人が必要不可欠であると感じました。

当時、私は運搬船に乗ることになりましたが、1日漁に出ても魚を触ることがなかったり、時には魚を見ない日すらありました。なんとなく、“自分のやりたかった漁業とはちょっと違うなあ”と思い始めるようになっていました。

②親方との出会い

まき網船に乗り約1年、それでもなんとか自分なりに慣れ始めていた矢先、父が亡くなり、実家の仙台に戻ることになりました。そこで、仙台の近辺で漁業のできる場所を探しましたが、やはり経験の浅い私は門前払いがほとんどでした。そんな中、亘理町漁協から今の親方を紹介してもらいました(図4)。小型底引きの船でした。話を重ねていくうちに、自分がイメージしている漁業がそこにあると実感し、亘理に来る事に決めました(素人の私を快く受け入れてくれた組合長をはじめとする組合の方々、そして親方には本当に感謝しています)。

多人数の船から親方と2人きりの船では、仕事の中味が全く違いました。かわりにやってくれる人はだれもいないのです。しかし、網をあげている時の緊張感、「どんな魚が入っているんだろう?」という楽しみや期待感、自分で触って自分で獲っているんだという充実感は私のイメージしていた漁業そのものでした。大漁の時の嬉しさを身にしみて感じ、網あげのたびに一喜一憂しています。また、当初は活魚を急いで分ける時にその魚を生かせば良いのか分からなかったり、ヒラメ、マガレイ、マコガレイ、イシガレイの区別がつ

かず苦勞しました。今でも、魚の種類や旬の魚、さばき方、食べ方などまだまだ分からないことだらけで、1から勉強の毎日です。

亘理町に来て2年が過ぎようとしています。その間たくさんの仲間ができ、また、みんなの協力でなんと亘理町漁業協同組合の正組合員にもなることができました。

6 波及効果

朝3時に出漁し、夕方帰ってくる生活リズムにも慣れてきました。家族で自分の獲ってきた魚を囲んで今日1日あったことを話し、夕食を食べることがとても楽しく、素晴らしいことだと今つくづく実感しています(図5)。

私のように漁業をやりたい人がいる一方で、漁業を続けたいが、後継者がいないと思っている人がいるのも事実です。しかし、両者の接点は非常に少ないのが現状です。また、漁業に携わる人や港町などに住んでいる人以外は漁業にほとんど関心を持つ人が少ないのも事実です。もっと漁業の種類や内容、重要性や厳しさ、楽しさをアピールしていくべきだと思います。また、最近の漁業の不安定さからこの世界に飛び込みたくとも出来ない人も多数いるのではないのでしょうか。これからは、担い手として新規就業者も念頭に置くとともに、難しいとは思いますが安心できる収入形態を考えていくべき時期にきているのではないかと思います。

7 今後の課題

最近、漁業と以前勤めていたアパレル業界とは実は良く似ているのではないかと思うようになりました(図6)。よくお店では「Tシャツ1枚からがスタート」と言われていました。お客様に、品質、デザイン着心地の良さを納得してもらい、また印象の良い接客をし、次の来店へとつなげます。最初の1枚のTシャツに満足したお客様は「またあの店で買おう!」と足を運んでくれ、コーディネート販売へつながっていき、顧客になり、口コミでお客様の輪が広がっていきます。そして、それがその先の“ブランドの認知”へとつながっていくのです。

漁業も「魚1匹からがスタート」ではないかと思えます。私も漁業に就いて初めて新鮮な魚の本当のおいしさを実感しましたが、水揚げされた魚が新鮮で活きが良く、手頃な値段で食卓の皿の上ののり、それを「おいしい!」と言ってもらう繰り返しが魚のブランド化へとつながっていくのではないのでしょうか。私達漁業者自身もただ漠然と魚を市場に並べているだけでは獲ってきた魚の価値は上がりません。どんなルートで魚が動き、お客様

の口の中に入るのかを知り、こちら側からお客様へ情報提供（アプローチ）していくことが販路拡大、価格安定へとつながっていくのだと思います。「そんなことやっても無駄」とあきらめムードにならず、Tシャツのように1匹の魚を大事に扱い、消費者に発信していくことの重要性を地域の皆に少しでも伝えることが出来ればと思います。

サラリーマンだった経験をこの世界に生かし、違った角度から漁業に何かを提言し、実行することで、私のような未経験者でもやれるんだというところを皆に見てもらいたいと思います。そして、5年後、10年後の自分達、子供達、漁業の発展につなげてくことが出来るように、自分自身もっともっと経験を積み重ね、海のこと、魚のこと、そして漁業のことを深く学んでいきたいと思っています。

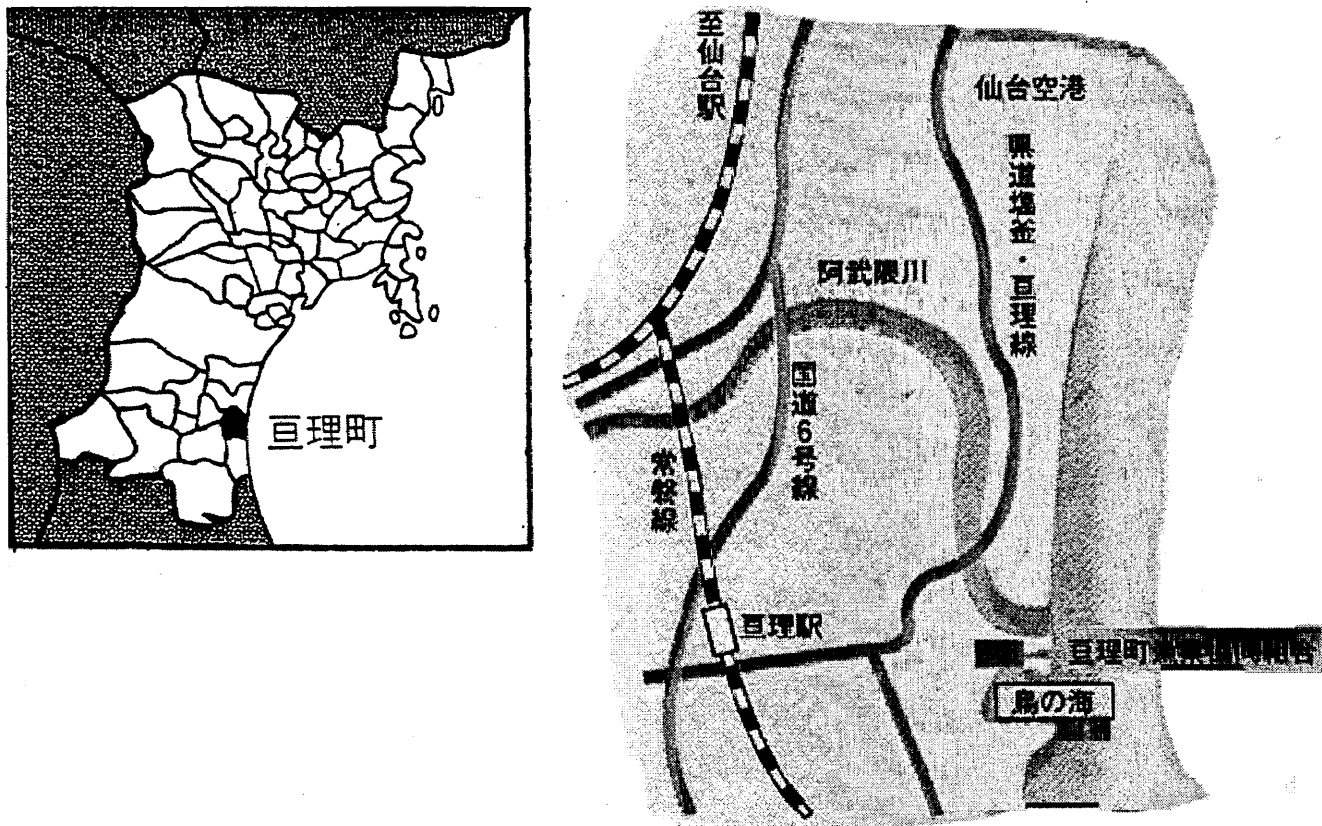


図1 巨理町と巨理町漁業協同組合の位置

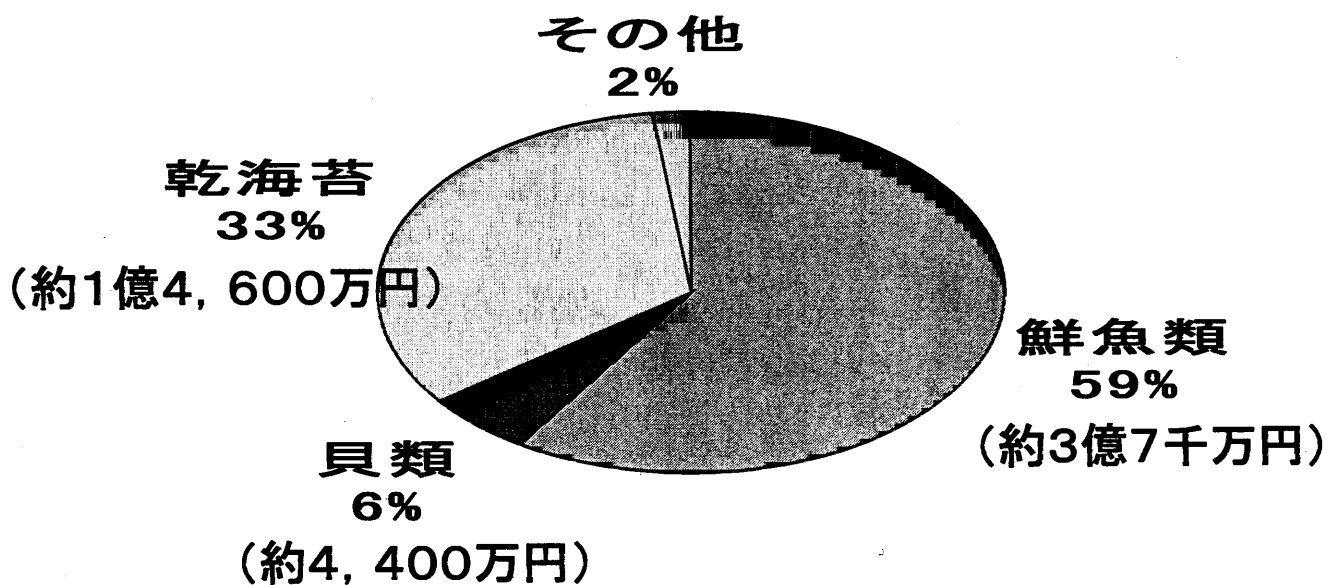


図2 平成12年度の巨理町漁協における水揚げ金額

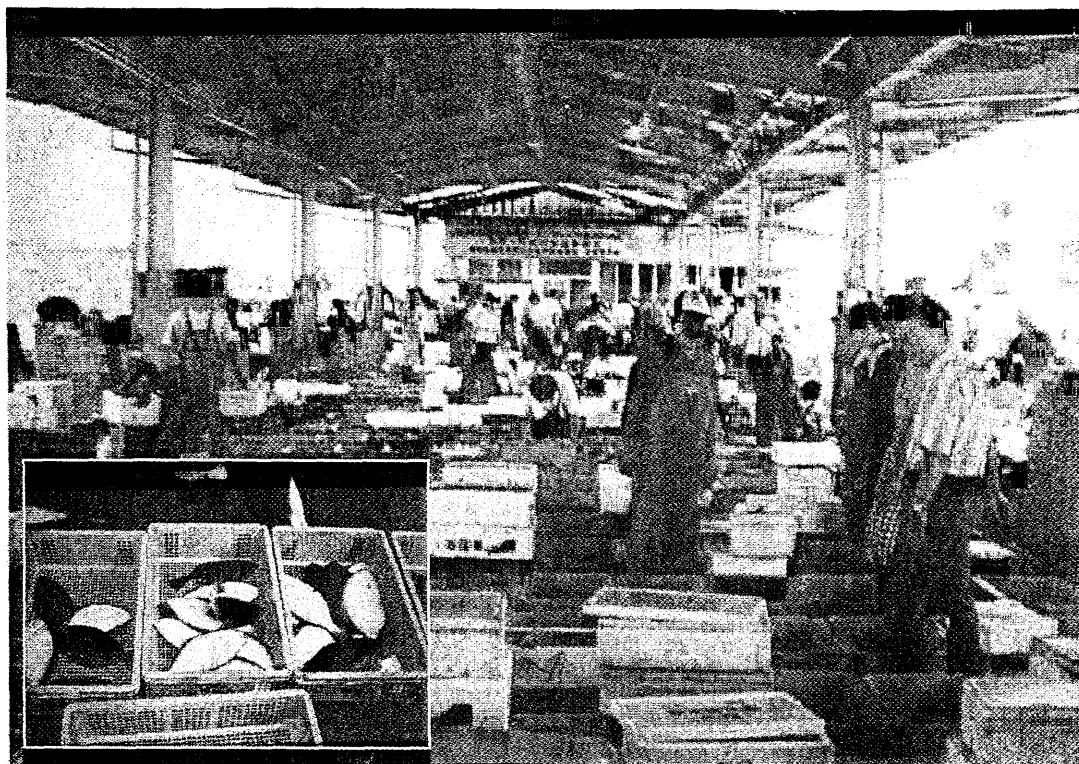


図3 亘理町漁業協同組合と市場
(奥の建物が組合)

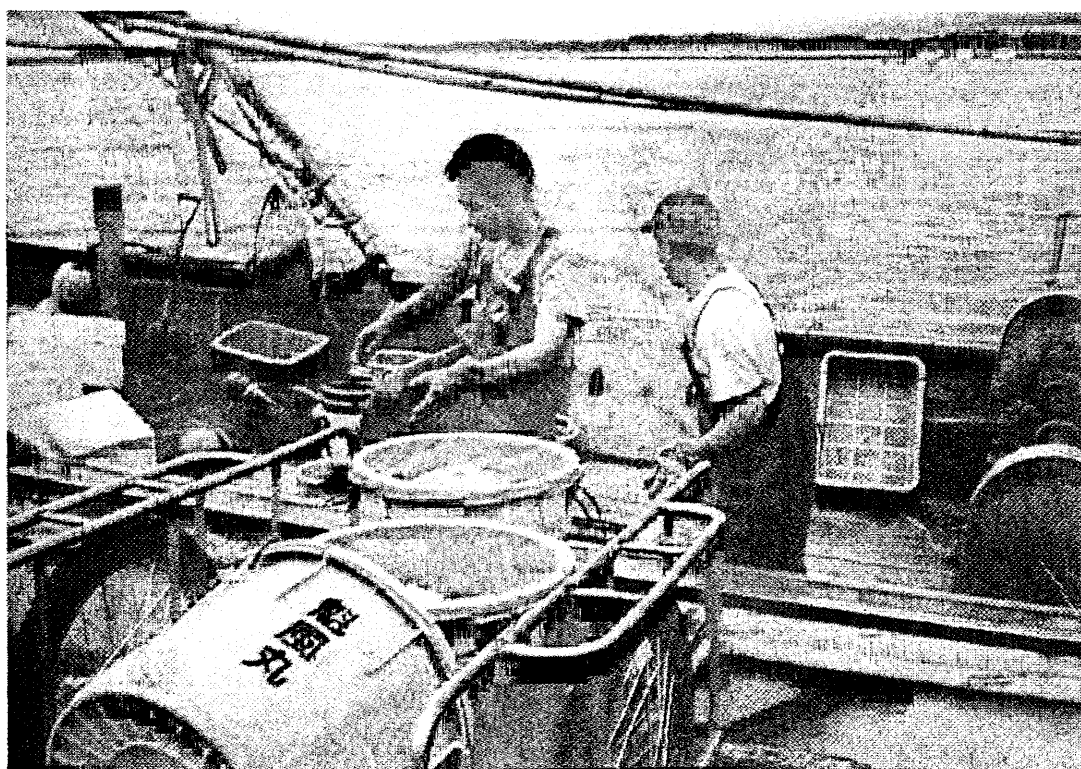


図4 親方と私
(帽子をかぶっているのが私)



図5 私の家族

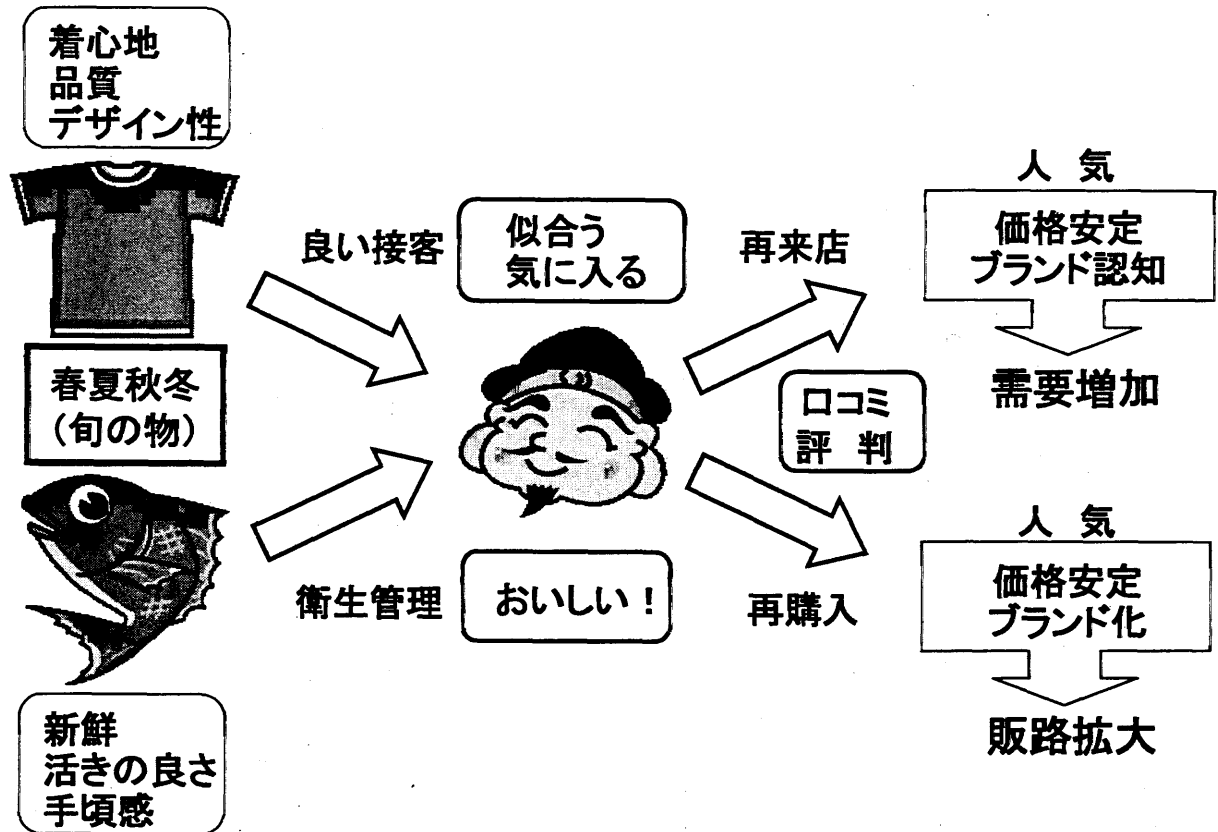


図6 アパレル業界と漁業の共通点